

イエスが祈られた「主の祈り」

京都伝道区婦人会 秋の修養会

2024年10月22日（火） 京都聖ヨハネ教会

司祭 ヨハネ 井田 泉

聖歌 362 (ガリラヤの海辺)

今歌った聖歌の1節

♪ ガリラヤの海辺 山 緑に／風かおるあたり／主イエスひれ伏して 祈りましぬ

イエスが祈っておられた。それを知りたい、それを感じたい。そう願って、今日のひと時を過ごしたいと思います。

今、わたしたちの、皆さんの祈りの生活はどうでしょうか。個人の祈りはどんなふうでしょうか。また教会の礼拝ではよく祈ることができているでしょうか。

今日の願いは次の三つです。

【願い】

1. イエスが祈っておられたし、今も祈っておられる。それを感じたい。
2. 祈ることをイエスに学び（特に「主の祈り」）、イエスとともに祈る者になりたい。
3. イエスの祈りに励まされつつ、イエスとともに神の国のために働く者になりたい。

今日のタイトルは「イエスが祈られた『主の祈り』」としました。これには二つ意味があります。ひとつは、イエスが弟子たちに教えられた「主の祈り」、わたしたちが繰り返し唱えている「主の祈り」は、主イエスご自身が祈っておられたものだということです。もうひとつは、その「主の祈り」の中の一つひとつが、イエスご自身の生涯において、非常に大切な、切実な祈りであった、ということです。

今日は「主の祈り」について順に一つひとつを解説するわけではありません。主イエスの生涯において、このとき、このように祈られた。それが主の祈りのここと関係している。そういうことを発見していくことができればと思います。

(以下の番号は聖句引用の通し番号)

講話 I イエスは祈っておられた

イエスは祈っておられました。そのことを聖書の中に見ていきましょう。ここではまず四つの場面に触れてみることにします。

1. 朝早く

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。」 マルコ 1:35

これは、イエスが宣教活動を開始されたごく初期のことです。あるとき、ある場所で、イエスは弟子たちとともに一夜を過ごされた。夜が明ける前、ふとペテロが目覚めると、傍らに寝ておられたはずのイエスの姿が見えない。気になって起き上がったペテロは、あたりを捜すのですがイエスの姿は見当たらない。だんだん心配になってきて、ペテロは他の弟子たちを起こし、外に出てうす暗い外をあちこちと捜し回りました。ようやく見つけて、イエスに言いました。「みんなが捜しています」。

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。」

この場面、光景を思い浮かべてみましょう。祈ることはイエスにとって必要な、とても大切なことでした。ひとり祈ること、神さまとの交わりを持つことは、イエスの生涯とその働きを根本から支えるものでした。

ペテロたちはイエスがひとり祈っておられるのを見つけた。何を感じたのでしょうか。祈りを終えたイエスは言われました。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのだ。」

この時点で、弟子たちがイエスの祈りの大切さをどこまで理解していたかはわかりません。けれども次第にその大切さを、弟子たちは知っていくことになります。

この箇所は、50年近く前、わたしが神学校に行く少し前、とても大切に感じていた箇所です。

2. 十二人を選ぶとき

「そのころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。朝になると [彼の] 弟子たちを呼び集め、その中から十二人を選んで使徒と名付けられた。」

ルカ 6:12-13

この記事はルカ福音書だけが伝えています。イエスの弟子たちが次第に増えてきたとき、その中でお世話係というリーダー的役割を果たす人が必要になってきます。イエスの思いをよく理解し、その働きに積極的に協力する人、やがてはイエスによって派遣されて神の国を伝え、癒やしの業を行うようになる人です。そのような人を選ぶために、「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」というのです。ほんとうにふさわしい人を選ばなくてはならない。そのためにイエスは徹夜して祈ら

れた。言い換えると、使命を託されることになる 12 人は、イエスの祈りによって選ばれ、支えられていたのです。

わたしたちもまた、イエスによって、招かれ、祈りをもって支えられている者です。

3. ペテロの信仰告白の前に

「イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちは共にいた。そこでイエスは、『群衆は、わたしのことを何者だと言っているか』とお尋ねになった。」ルカ 9:18

ペテロの信仰告白の場面です。これに続いてイエスが「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と問われたとき、ペテロは「**神からのメシアです**」と答えました。

この話は「**イエスがひとりで祈っておられたとき**」から始まっています。ペテロの信仰告白は、自分だけの考えや努力で到達したものではない。まずイエスの祈りがあったのです。彼の中に信仰が生まれ育つように祈ってくださった。ペテロだけのことではありません。イエスの祈りがわたしたちの信仰を呼び覚まし、育てくださる。

4. 山の上で（変容）

「この話をしてから八日ほどたったとき、イエスは、ペトロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。」ルカ 9:28-29

ペテロの信仰告白と深くつながるのが、この山の上の変容貌です。

この時、イエスはどうしても祈らなければならなかった。ご自分の道を受け入れ、決意すべき時でした。この後にモーセとエリヤが現れて、「エルサレムで遂げようとしておられる最期」について話していた」とあります（9:31）。

祈っているうちにはっきりした決意が起こった。神から託されたことを行い、苦難を引き受けて自分の道を歩もう。それがイエスの顔の様子に現れたのです。内面の変化が外に現れた。祈りは人を内側から変え、生き方を変化させます。

（黙想）

- ・イエスが祈っておられる場面を思い、その光景を想像し、イエスの祈りを感じたい。
- ・イエスは世界のためにも、教会のためにも、わたしのためにも祈っておられる。
- ・イエスは礼拝の前に、祈りつつわたしたちを待っておられる。

講話Ⅱ イエスはわたしたちに祈ることを教えてくださる（主の祈り）

5. 弟子の求めに答えて「主の祈り」を教える

「イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに、『主よ、ヨハネが弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを教えてください』と言った。そこで、イエスは言われた。『祈るときには、こう言いなさい。“父よ、御名が崇められますように。……”』」ルカ 11:1-2（マタイ 6:5 以下参照）

この弟子は、祈ることについて自信がなかった。同時に、イエスの祈りに触れていて、イエスの存在と活動の中心に祈りがある（イエスの秘密は祈りにある）、と感じていた。それを知りたい、学びたい。「教えてください」。勇気ある言葉です。

ここで弟子がイエスに願い求めたのは、ただ「どう祈ったらよいか」という祈りの言葉や方法だけではなく、「祈ること」そのものについて教えてもらうことでした。わたしたちの新共同訳では「祈りを教えてください」と訳されているのですが、以前の口語訳は「祈ることを教えてください」となっていました。ギリシア語原文を見ると、*δίδαξον ἡμᾶς προσεύχεσθαι* (teach us to pray)、「祈ること」となっています。

「主の祈り」はイエスが祈っておられた祈りです。「主の祈り」を祈ることによってわたしたちはイエスの祈りに招き入れられ、イエスの祈りに加わります。

主の祈りの概要

- 1 【呼びかけ】天におられるわたしたちの父よ、
- 2 【祈願】(1) 神に関する祈願（祈り）前半3つ
 - み名が聖とされますように。
 - み国が来ますように。
 - みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。(2) わたしたちに関する祈願（祈り）後半3つ
 - わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
 - わたしたちの罪をおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。
 - わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。
- 3 【頌栄（賛美）】国と力と栄光は、永遠にあなたのものです **アーメン**

「神に関する祈り」が先、その次に「わたしたちに関する祈り」が続きます。神が第1、わたしたちのことが第2。これが信仰の秩序です。

「まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与え

られる」(マタイ 6:33) とイエスが言われたことを思い出しましょう。

ここからイエスご自身が、主の祈りの内容(困難な事態)を経験し、祈られた例を、想像も含めて三つ取り上げたいと思います。

6. 日ごとの糧を——飢え

「そのころ、ある安息日にイエスは麦畑を通られた。弟子たちは空腹になったので、麦の穂を摘んで食べ始めた。」マタイ 12:1

イエスは弟子たちとともに、「日ごとの糧」を祈り求められました。聖書本文には「弟子たちは空腹になったので」とありますが、イエスも同じだったはず。よほどの飢えを経験されたのです。ところが麦の穂を摘む弟子たちを見て、ファリサイ派の人々がイエスに言いました。「御覧なさい。あなたの弟子たちは、安息日にしてはならないことをしている」。これに対してイエスは、「昔ダビデとその供の者たちが空腹だったとき、神の家に入って、祭司のほうは食べてはならないはずのパンを食べたではないか」と言って、神は憐れみの神であること強調し、「あなたたちは罪のない人たちをとがめた」とファリサイ派の人々の追及を退けられました。

ひどい空腹の中でイエスは「わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください」と祈られたでしょう。そして麦の穂を摘んで食べることが許される、という仕方で必要が満たされた。ここでイエスも弟子たちと一緒に飢えて苦しみ、そして食べる喜びをともにした。ともに神に感謝されたことでしょう。

7. 誘惑に陥らせず——40日間、荒野で

「“霊”はイエスを荒野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。」マルコ 1:12-13

イエスが公に活動を開始される前、40日間、荒野で過ごされました。そのとき、イエスは飢え、孤独、衰弱の極みを経験し、その中でサタンから誘惑を受けられました。サタンの目的は、イエスを神の道から逸れさせることです。このときイエスは死ぬ思いで祈られたに違いありません。

「わたしたちを誘惑におちいらせないでください」という祈りは、イエスが切実に経験された祈りでした。この祈りを、生涯の最後、ゲツセマネでもう一度決定的に祈られることになります。

8. み名が聖と——過越祭の前（受難の前）の恐れ

「今、わたしは心騒ぐ。何と言おうか。『父よ、わたしをこの時から救ってください』と言おうか。しかし、わたしはまさにこの時のために来たのだ。父よ、御名の栄光を現してください。」ヨハネ 12:27

イエスに死が迫ったとき、イエスは呻くように祈られました。

（新共同訳、聖書協会共同訳は「『……』と言おうか」と訳して、イエスがこのように呻くのを否定しているかのようです。しかし、わたしはイエスがこの時、激しい不安のうちから父に向かって呻き叫ばれたと理解したいと思います。）

「キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ」た、と記されています。（ヘブライ 5:7）

この魂の苦しみのとき、イエスは父なる神を呼び、「御名の栄光を現してください」と祈られました。今のこの苦しみ、これから起ころうとする事の恐しい不安の中で、イエスは「父よ、御名の栄光を現してください」と祈られました。これは主の祈りの「み名が聖とされますように」と同じです。神が崇められることを祈られたのです。

（黙想）

- ・主の祈りを、イエスは自分の生涯、ある状況の中で祈っておられたことを思ってみる。
- ・わたしたちの生活の中で主の祈りを具体的に祈るようになっていきたい。

聖歌 359 （世にまししときの）

講話Ⅲ イエスはわたしたちのために祈ってくださる

9. 誘惑と悪からの守り——最後の晚餐

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った」ルカ 22:31-32

「わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。」ヨハネ 17:15

受難の時、また弟子たちとの別れの時が迫った最後の食卓の席で、イエスは弟子たちの

ために切に祈られました。「彼らを誘惑におちいらせず、悪からお救いください」と。わたしたちの試練のとき、イエスはわたしたちのために切に祈ってくださいます。それに支えられて、わたしたちも失望せずに祈ります。

10. 赦し——十字架

「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」ルカ 23:34

イエスは十字架の上で、釘打たれて死のうとしながら、自分を十字架に付けた者たちのために赦しを祈り求められました。このイエスの祈りに支えられて、わたしたちも自分の罪の赦しを求めて祈ります。

また人を赦すことを学んでいきます。

(聖餐式の^{ざんげ}懺悔のとき、わたしたちには心の痛みがあるでしょうか？ 懺悔の思いが深いほど、主によって赦されることの喜びは大きくなります。)

【主の祈りの最初と最後】

(1) 父よ——神への呼びかけ (すでに上記 8、10 にも「父よ」があった)

神への呼びかけだけで、すでに祈りです。呼びかけは神に届きます。

11. 賛美——幼い者の中に神の業を見たとき

「そのとき、イエスは聖霊によって喜びにあふれて言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子 [のような者=不要] にお示しになりました。』」ルカ 10:21 (マタイ 11:25)

あるとき、イエスは幼い者の中に神の臨在と働きをご覧になった。そのとき、思わず喜びが溢れて、「天地の主である父よ」という神への呼びかけと神への賛美が口をついて出ました。

わたしは神学校を出てから定年退職するまでの 43 年のうち、24 年間幼稚園に関わりました。その中で「この子の中にイエスさまが働いておられる」と感じて、思わず涙ぐんだことがあります。

また幼稚園で週 1 回、子どもたちと一緒に礼拝をささげていましたが、みんなで主の祈りを唱えるとなぜかとても元気が与えられました。子どもたちは意味はよくわかっていないはずなのに、不思議です。親子礼拝に参加されていたお母さんからも同じ感想をいただいたことがあります。

12. ゲツセマネで

「アッバ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うこと [あなたが欲すること] が行われますように。」 マルコ 14:36

「アッバ」はイエスが話しておられたアラム語で、幼い子がお父さんと呼ぶ言葉です。新約聖書はギリシア語で書かれていますが、ここにはアラム語「アッバ」が残されています。イエスの肉声が聞こえるようです。

ご自身の危険が迫るこのゲツセマネで、イエスは「みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように」という主の祈りの第3の祈りを、血の汗を流して極限まで祈られました。

(2) アーメン

主の祈りは「アーメン」で閉じられます。アーメンを含む頌栄の部分は福音書にはなく、後の教会の礼拝で加えられたものと思われます。

「アーメン」は日本語の聖書を見る限り、イエスの言葉としては見当たらないように思えます。ところがギリシア語原文を見ると、イエスの言葉には「アーメン」が非常に多く出てきます（ギリシア語聖書で数えると、福音書だけで101回（76節））。

例えば次のふたつがそうです。

13. 「はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。」 ヨハネ 6:47

Ἀμήν ἄμήν λέγω ὑμῖν

アーメン アーメン (わたしは) 言う あなたがたに

14. 「はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行う。」 ヨハネ 14:12

「アーメン、アーメン、(わたしは) あなたがたに言う」が「はっきり言うておく」と訳されているのです（わたしはこの訳し方は好きではありません。何か捨てぜりふのように感じるので）。

イエスは繰り返し「アーメン」と言って、弟子たちに強く訴えかけられました。

イエスはわたしたちとともに神に向かって祈られると同時に、わたしたちに対して「アーメン」と言って永遠の命の約束を与え、わたしたちを励まされます。

(黙想・まとめ)

- ・「信じる者は永遠の命を得ている。」「わたしを信じる者は、わたしが行う業を行う」とイエスは言われました。この二つのことを大切に心にとめていきましょう。この約束は「主の祈り」を祈り深めることによって確かなものとなっていきます。こうしてわたしたちはイエスとともに神の国の実現のために祈り、働く者とされていきます。
- ・このように大切な「主の祈り」ですから、意味を感じ、心をこめて、ゆっくり丁寧に祈るようにしましょう。

主の祈り

祝祷

聖歌 124 (愛の神のみそばへ)

(以下は生涯の順にイエスの祈りを列記したものです。)

イエスの生涯における祈り

- ① 荒野で (誘惑のとき) マルコ 1:13
- ② 朝早く マルコ 1:35
- ③ 十二人を選ぶとき ルカ 6:12
- ④ 困難を抱えた人を前にして (耳が聞こえず舌の回らない人) マルコ 7:34
- ⑤ 5000人 (以上) の前で マルコ 6:41
- ⑥ ペトロの信仰告白の前に ルカ 9:18
- ⑦ 山の上で (変容) ルカ 9:28-
- ⑧ 幼い者の中に神の業を見たとき ルカ 10:21 (マタイ 11:25)
- ⑨ 弟子の求めに答えて「主の祈り」を教える ルカ 11:1-4 (マタイ 6:5-13)
- ⑩ 過越祭の前 (受難の前) ヨハネ 12:27
- ⑪ 最後の晩餐で ルカ 22:31-32 ヨハネ 17:15
- ⑫ ゲッセマネで マルコ 14:36
- ⑬ 十字架の上で ルカ 23:34 ほか
- ⑭ 昇天に際して ルカ 24:50-51